

A. 主な動き

1. 内政

・26日、モルドバ第2の都市バルチ市議会は、9月9日に同市の自治権拡大に関する市民投票を実施する旨決定。これに対し、1日、フィラト首相は、モルドバ政府とバルチ市行政府が合同で議論すべき問題であるとして、本決定には手続上の瑕疵がある旨発言。

2. 経済

▼抗議デモ

・31日、農業生産者数千名は、政府による農作物の付加価値税(VAT)引き上げ措置(現行VAT8%を20%に引き上げ)に対して抗議行動(道路封鎖等)を実施。

3. 沿ドニエストル

▼カラーシン露外務次官の来訪

・27日、ティモフティ大統領は、キシナウにおいてカラーシン露外務次官と会談し、沿ドニエストル紛争地域「安全地帯」に駐留する平和維持部隊の役割は終わったとして、国際警

察部隊へ形式を変更する必要がある旨発言。カラーシン次官は、ロシアはモルドバの領土一体性を尊重するとし、沿ドニエストルに特別な法的地位を与えることで紛争が解決される可能性に関し言及。

・28日、カラーシン外務次官は、ベンデル(沿ドニエストル)を訪問し、平和維持活動20周年記念式典に出席。シェフチューク「大統領」及びカラーシン次官は、平和維持部隊の必要性を強調し、活動のフォーマット変更に反対である旨発言。カラーシン次官は、式典後、ロシアは、モルドバにおける連邦制の導入による紛争解決策を排除しない旨発言。

▼その他

・2日、シェフチューク「大統領」は、モスクワを訪問し、ロゴジン露副首相兼沿ドニエストル担当露大統領特使と会談。双方は、ロシア国民を含む沿ドニエストル住民の社会・経済問題に関し協議。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)